

ふき

農薬取締法上「ふき」と「ふき（ふきのとう）」は別の作物である。

—— 発病・加害時期
 == 発病・加害最盛期

| 月 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|---------|---|---|----|---|---|---|---|-------|---|---|----|----|----|
| 作型・病害虫名 | 成 | | 収穫 | | | | | ○×××× | △ | | | | |
| | 制 | | | | | | | ○×××× | △ | | | | |
| 白 | 絹 | | | | | | | | | | | | |
| 灰 | 色 | | | | | | | | | | | | |
| 半 | 身 | | | | | | | | | | | | |
| ア | ブ | | | | | | | | | | | | |
| コ | ナ | | | | | | | | | | | | |
| ハ | ス | | | | | | | | | | | | |
| ヨ | ト | | | | | | | | | | | | |
| フ | キ | | | | | | | | | | | | |
| | ノ | | | | | | | | | | | | |
| | メ | | | | | | | | | | | | |
| | イ | | | | | | | | | | | | |
| | シ | | | | | | | | | | | | |
| | ミ | | | | | | | | | | | | |
| | ト | | | | | | | | | | | | |
| | ム | | | | | | | | | | | | |
| | イ | | | | | | | | | | | | |
| | ガ | | | | | | | | | | | | |

白絹病

留意事項

- 1 高温多湿が続くと発生が多い。
- 2 かん注は地際部にもよくかかるよう株元に行く。
- 3 リゾレックス粉剤、リゾレックス水和剤の成分トルクロホスメチルの総使用回数は、3回以内（但し、種茎粉衣は1回以内、定植前の土壌混和は1回以内、株元かん注は1回以内）。
- 4 バリダシン液剤5の成分バリダマイシンの総使用回数は、種茎浸漬とかん注を併せて5回以内（但し、種茎浸漬は1回以内）。
- 5 SDHI剤〔7〕は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 被害株は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 2 田畑輪換を図る。
- 3 植付時に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [リゾレックス粉剤](#) 〔1 4〕【20～40kg/10a 土壌混和 定植前／1回】
 - ・ [バリダシン液剤5](#) 〔U 1 8〕【800倍 30分間種茎浸漬 植付時／1回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を土壌に処理する。
 - ・ [バリダシン液剤5](#) 〔U 1 8〕【800倍 かん注 3L／㎡ 7日／5回】
 - ・ [モンカット水和剤50](#) 〔7〕【1,000～2,000倍 土壌面にかん注 3L／㎡ 定植時および生育期(30日)／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [リゾレックス水和剤](#) 1 4 【1,000倍 株元かん注 3L/m² 21日/1回】

灰色かび病

防除方法

- 1 被害株は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 2 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ダコニール1000](#) M 5 【1,000倍 21日/2回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [セイビアーフロアブル20](#) 1 2 【1,000倍 7日/2回】
 - ・ [スミブレンド水和剤](#) 2 1 0 【1,500倍 14日/2回】

半身萎ちょう病

留意事項

- 1 本病は土壌伝染及び種茎伝染し、なす・トマト等の半身萎ちょう病と共通の病原菌である。
- 2 発病適温は気温22～26℃である。

防除方法

- 1 連作を避け、田畑輪換を図る。
- 2 種茎は発病の見られないほ場の健全株から採取する。
- 3 被害株は根を含めて早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 4 夏期高温時に太陽熱利用による土壌消毒を行う。(Ⅻ土壌消毒 参照)

モザイク病

防除方法

- 1 ウイルスによるモザイク症状や萎縮が発生した株は廃棄し、種茎として用いない。
- 2 アブラムシ類の防除に努める。(アブラムシ類の項参照)

アブラムシ類

留意事項

- 1 ウイルス病を媒介する。
- 2 パダンSG水溶剤は、眼に対して刺激性があるので、調製時には保護メガネを着用して眼に入らないよう注意する。

防除方法

- 1 ハウスでは、開口部を寒冷しゃやネット（目合い0.8mm以下）で被覆する。
- 2 ほ場内や周辺部の除草を徹底する。
- 3 下記の薬剤を施用する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) 4 A

【20kg／10a 土壌表面散布 定植後～生育期（草丈20cm頃まで）（45日）／1回】

4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [アドマイヤーフロアブル](#) 劇 4 A 【4,000倍 7日／2回】
- ・ [パダンSG水溶剤](#) 劇 1 4 【1,500倍 7日／2回】

コナジラミ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 収穫後の作物残さは処分する。
- 2 ハウスでは、開口部を寒冷しゃで被覆する。
- 3 ほ場内や周辺部の除草を徹底する。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A 【3,000倍 14日／2回】
 - ・ [アドマイヤーフロアブル](#) 劇 4 A 【4,000倍 7日／2回】
 - ・ [アブロード水和剤](#) 1 6

【タバココナジラミ類幼虫（シルバーリーフコナジラミ幼虫を含む） 1,000倍 21日／3回】

 - ・ [サンマイトフロアブル](#) 劇 2 1 A 【1,000倍 14日／2回】
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A 【2,000倍 7日／2回】

ハスモンヨトウ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 1 3 【2,000倍 7日／2回】
 - ・ B T 剤 1 1 A （IX野菜類の病虫害防除 3野菜類 参照）
 - ・ [アタブロン乳剤](#) 1 5 【2,000倍 3日／3回】
 - ・ [プレバソンフロアブル5](#) 2 8 【2,000倍 3日／3回】
 - ・ [ファルコンフロアブル](#) 1 8 【4,000倍 3日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ヨトウムシ

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トレボン乳剤](#)

| | |
|---|---|
| 3 | A |
|---|---|

 【1,000倍 14日／3回】
 - ・ B T 剤

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 1 | A |
|---|---|---|

 (Ⅸ野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

フキノメイガ

留意事項

- 1 地下茎にも食入することがある。
- 2 パダンSG水溶剤は、眼に対して刺激性があるので、調製時には保護メガネを着用して眼に入らないよう注意する。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [パダンSG水溶剤](#) 劇

| | |
|---|---|
| 1 | 4 |
|---|---|

 【1,500倍 7日／2回】
 - ・ [トレボン乳剤](#)

| | |
|---|---|
| 3 | A |
|---|---|

 【1,000倍 14日／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。